

2020(令和2)年3月30日

2019(令和元)年度関西保育福祉専門学校
第2回 教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、「第2回教育課程編成委員会」を開催しましたので、その概要を報告します。

1 開催期日 2020(令和2)年2月25日(火) 15:00~17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 校長室

3 出席者(敬称略)

【委員】

名前	所属等	備考
北野 幸子	神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授	欠席
富奥 眞二	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長	出席
赤井 祐	社会福祉法人聖隷福祉事業団 宝塚せいれいの里 ケアサービス課 課長	出席
浅田 尚子	尼崎市立西長洲保育所 所長	出席
北島 孝通	幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園 副園長	欠席
濱田 洋行	社会福祉法人協同の苑特別養護老人ホーム ケイメゾンときめき 施設長	出席
細田 明子	関西保育福祉専門学校 教頭	出席
藤井 和子	同上 教務部長	出席
山本 晴彦	同上 保育科学科長	出席
尾崎 朋子	同上 介護福祉科学科長	出席
藤田 千波	同上 保育科教員	出席
村田 健治	同上 保育科教員	出席

【オブザーバー】

濱名 篤	学校法人濱名学院理事長 関西国際大学学長	出席
本田 あけみ	関西保育福祉専門学校校長 関西国際大学経営学部教授	出席
藤原 隆之	関西保育福祉専門学校 課長代理	出席

4 委員会次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 理事長挨拶
- (3) 協議

【協議事項1】 2019(令和元)年度 of 取組状況と課題

① 学校の取組

■ 資料に基づき説明

1) 連携奨学金制度について

- ・ 尼崎市法人保育園会において説明を行った際、「難しい」との意見があった。

理由として、途中で学生の気持ちが変わることもある、また辞めることもあるのではないかという意見であった。

- ・ 学校には、福祉法人立の保育園などからはペイドインターンシップ受け入れの申し込みがある。

2) ペイドインターンシップについて

- 委員からの意見
- 現在行っているものはいるのか。
 - 1名おり、週3回保育補助や清掃等を行っている。
- アルバイトとの差はなにか。
 - 施設より学生に課題を与えていただき、学生は課題をもって行き、評価していただく。
 - 介護福祉科では以前から同様の趣旨の制度を行っており、施設等からの申し出は多いが、出せる学生数が少ない。
- 施設として、就職のミスマッチを避けるためにも、活用したい。

3) 平成30年度生就職状況について

- 委員からの意見及び質問
- このアンケートで改善につながるものとなっているのか
 - 社会人マナーについては講座等で指導しているが不十分なので、次年度から初年次教育でクラスごとに行っていたものを全体で行っていく。現場で求められているものをきちんと考え、授業の中で、即戦力として何をやっていけばよいか考えていく。
- 卒業生を丁寧に追いかけていることは評価できる。
- アンケート実施時期が8月であると、就職して4か月くらいの時期であり、指導が必要な人は当然いる。コミュニケーション能力、組織全体での情報共有する力、考えていることを言葉で伝える力をつけていくことが大事である。指導計画の作成については、4年制大学などの他の学校でも指導できていない。現場に入ってから指導していくことにならざるを得ない。アンケート実施時期を後にずらすと評価も変わってくるのではないか。
- 学校で学ぶことと現場組織で学ぶこととは分けて考えて考えればよい。学校では基礎をしっかりと学ぶことが大切である。
- 何をもって社会人としての心構えなのか。具体的に出てこない原因対策ができない。文章能力、書く力(手書きで書く語彙力・漢字)が弱くなってきているが、このことも「社会人として」の中に入っているのか。現場レベルでは、チューター制やプリセプター制でチェックリストなどを活用して指導している。外国籍の職員に対しても活用できる。今後、外国人の受け入れ態勢について、施設側も勉強して学校と連携していく。
- 現状・課題とそれに対する具体的対応策がセットで、出てこないといけない。これらの資料から何を分析し、対応しようとしているのかを示すことが必要である。

② 保育科の取組について 資料に基づき説明。

1) 今年度の取組と課題について

2) 実習ループリック評価

委員からの意見

- 「心身の健康管理」の自己評価が実習毎に下がってきていることは、就職後の体調管理に危惧を抱く。
- 「記録」については、就職して3年目ぐらいで書けるようになり及第点となると考えているので、養成段階の実習での基準としてはハードルが高い。
- 主観的なものから根拠はなにかを明らかにしないと何にもならない。改善策をとったから結果がこうなったということをしっかりとまとめないといけない。
- 実習先の他者評価と学生の自己評価の差を明らかにし、その要因を基に実習指導などに生かすことが必要である。
- ループリック評価は、実習時点の学生に対する評価でよいのか、保育者としての評価なのか？
 - 1年次、2年次の実習実施時の評価と考えている。
- 評価する施設もループリック評価に慣れていくことが望まれる。

3) 教育目標到達自己点検結果

委員からのご意見

- 学生が苦手と感ずることの評価が低い。
- 学生の自己評価であるが、定期試験の結果なども反映したものになっているか。学生は何を基に評価しているのか、評価後に学生と教員とで話し合うことが必要である。
- 学生が自己点検してその理由を書く。教員と対話して振り返りを行う。その時に教員の発問力が問われる。学生が自らの課題を外化し、主体的に取り組んでいけるようにするためにも、教育方法の改善点を出していくことが必要となる。
- この時期の教育課程編成委員会は、次年度につなげるものである。課題だけでなく今後の取組案となっていることが必要ではないか。このように改善していくという報告が必要で、何を变えていこうとしているのか、方向性と方法を具体策として文章化し、委員からの意見を求められるようにすることが重要である。

③ 介護福祉科の取組について 資料に基づき説明。

1) 学科における教育活動の充実

■今年度1年生33名中20名が外国人留学生であった。教育目標のつけ方を丁寧に説明しながら実施した。

2) 実習目標の変更について

委員からの意見

- 外国人留学生が増加している中で、学生の実態に合わせて内容を変えることは当然で、やむを得ない。大切な部分は「アセスメント力」である。関連項目に着眼して、課題に繋げる力、多角的にとらえる力をつけておくことが必要である。
- 実習だけでなく、ペイドインターンシップも活用すればよい。施設側で協力できるところは協力する。

- 積極性が大事である。初日は指示を待っているところが多い。
- 介護の現場は対人援助の仕事である。表情、態度で伝わり方は違う。外国人留学生にとって、コミュニケーションスキルである、返事をする、目を見て話を聞く、うなずく、などのコミュニケーションの実技が取り組みやすい。
- 現場では、シフトに穴をあける職員が一番困る。

【協議事項2】 保育者、介護福祉士として求められる情報活用力について

■資料に基づき説明。

- ・ 現場でどのような機器をどのように使われているか。
- 委員からの意見
- 公立保育所では、ワード、エクセルを使っている。文章作成、資料作成、保育の可視化としてポートフォリオ作り、ホームページ作成、資料等としてのパワーポイント作成などである。職場では、職員一人に1台のパソコンはない。タブレット活用までには、行きついていない。
- パソコンスキルは文章、表計算をするために必要であり、文章、表計算のしくみを知っておくべきである。近年、電子記録になっているため、タイピングができるようになっておく。パワーポイントは、研修などのプレゼンテーションに使用している。
- 専門用語で変換ができるようになっておく必要がある。記録や書類の手書きがなくなってきた。ビジネス文書の書式や作成方法は、知っておくべきである。タブレット使用も増えてきているので、授業で活用があっても良い。
- パソコンだけでなく、現場には、様々な電子機器などが入ってきている。介助ロボット、補助具等も導入されている。

5. 事務連絡